



啓示の光——言が導く仕事哲学の旅

私を変えた一言を放ったのは、前職の現場仕事で通りかかった他部署のベテラン社員でした。私は高校卒業後すぐに地元の大手造船会社に就職し、4年間会社員として働きました。入社し1年目、右も左もわからないまま教わった作業を進め、通りかかった方に「どの程度までできたらいいですか?」と聞いた私に返ってきた一言は、「人に聞かなきゃわからない程度の仕事をするな」でした。19歳の私はその言葉に大きな衝撃を受けたと同時に、まだまだ未熟だった洞察力を激しく刺激された感覚を今でも覚えています。それからの仕事はとに

かくゴールまで納得がいくまでやってみるというスタイルに変わりました。もちろんすべてがうまくいくわけではありませんが、自分が納得がいくまでやった仕事には確かな充足感がありました。

この一言は、理学療法士としてのキャリアにおいても私の心の原動力として深く刻まれています。今の職場で人間として、理学療法士として少しずつ成長しながらその解釈は変化していますが、その仕事論の根底にあるのは普遍の「納得できるか」です。患者さん、ご家族が納得できるゴール設定を綿密に行い、そこに少しでも私の気持ちを乗せて日々邁進していく。10年以上経った今も私を鼓舞し、迷いそうになる道を照らし続けてくれる、そんな一言でした。

西川智喜 南鹿児島さくら病院リハビリテーション部